

2025年4月13日(日)
中国新聞SELECT掲載



私は、2023年12月からカンボジアの首都プノンペンにある職業訓練学校で自動車整備に関する協力隊活動に従事している。今回は近年経済発展が著しいプノンペンの交通事情について紹介する。

JICA
だより



カンボジア

小島繁さん(66)

広島市佐伯区出身

車の整備不良事故深刻

2輪(125cc)は100万台で成人のほとんどが所有する。普及率が高い理由の一つに、この国独自の免許制度があげられる。政府は16年1月、「国民への贈り物」と称し125cc以下のバイク運転免許を廃止し取得不要とした。結

果、道路にあふれかえる多くのバイクや自家用車が渋滞や交通事故を引き起こし、社会問題化している。整備不良による自動車の故障、事故も深刻だ。カンボジアに輸入される中古自動車の年間販売台数のうち約9割が日本車。輸入規制

が厳しい周辺国と比べ、カンボジアは規制が緩いため、年式の古い車両が増えやすい傾向にある。また、これら中古車には事故車などの「訳あり車両」も多い。カンボジア自動車連盟によると、輸入中古車の約4割に全損状態から修復された形跡が確認され、約8割で走行距離のメーター巻き戻しがあったという

から驚きた。さらに日系の自動車整備工場へヒアリングをしたところ、驚くべき実態が明らかになった。他の整備工場では修理を終えたのに調子が悪いという依頼で確認整備をしてみると、正規部品ではない、似たような中古部品を取り付けて修理完了というケースがあったそうだ。現在も正しく整備ができる人材の育成が進まず、品質が確保された部品の供給も乏しいため、整備不良による事故や故障が多発している。優秀な自動車整備士を一人でも多く育てることが急務である。25年11月までを予定する派遣期間で少しでもこの国の交通事情の改善に貢献できるよう活動が続けていく。



自動車整備士の育成に向け、エンジンルームを教え子と一緒に点検する小島さん(左)

から驚きた。さらに日系の自動車整備工場へヒアリングをしたところ、驚くべき実態が明らかになった。他の整備工場では修理を終えたのに調子が悪いという依頼で確認整備をしてみると、正規部品ではない、似たような中古部品を取り付けて修理完了というケースがあったそうだ。現在も正しく整備ができる人材の育成が進まず、品質が確保された部品の供給も乏しいため、整備不良による事故や故障が多発している。優秀な自動車整備士を一人でも多く育てることが急務である。25年11月までを予定する派遣期間で少しでもこの国の交通事情の改善に貢献できるよう活動が続けていく。